



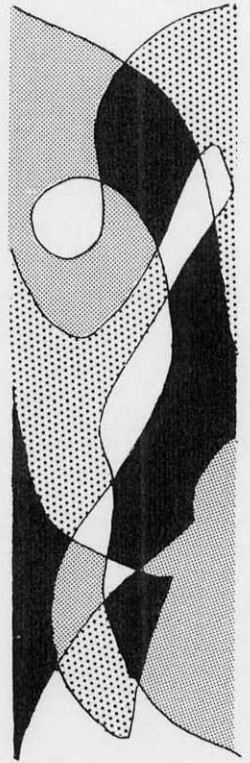
1 月 号

指先に
心を集め
弾く弦
音がひびき
心が響き合う
合奏のあとの
語りも楽しい
友を語り
暮らしを語り
夢を語り合う
音がつないでくれた
心と心を持ち寄って

昭和60年1月1日
編集 / 発行
岡崎市教育委員会



(弾き始め — 東海中)



— 教育随想 —

師の姿二話

平井眞一

真心の味

料理・茶・生花・語学等で人が熟練に要する時間は、初心者段階を終えるのに五〇〇時間、優秀といわれるまでに一五〇〇時間、一芸に秀でるといわれるためには五〇〇〇～一〇〇〇〇時間といわれている。

何事でも、ある所に到達すると苦しさがおもしろさに変わり、自ら進んで練習に励むようになることは、だれしもが経験するところである。

「登山の魅力は、苦しさに耐えて頂上に到着した時の達成感と爽快感で、それを味わった者でなければ理解できない。」ということと同じである。

「ものを食うのは、せんじつめていくと、口や舌でなく、魂が食うのだ。口や舌はごまかせても、魂はごまかせない。真心のこもった食べ物、だから、何

ともいえぬ味がある。……………

真心のこもったものは、たとえ不器用なできごとでも、見ているうちにだんだんひきつけられてくるものである。それで、料理を修業するものは、決して不器用を嘆いてはならない。不器用なものが懸命に魂を打ち込んで、ジリッジリッと上がってきた。こういう人には、器用一方の人は必ず押されてしまう。」

これは、天皇御一家の主厨長を勤められた秋山徳蔵氏の「真心がつくる味」の一節である。

器用なものが、それに溺れて不器用なものに追い越されてしまうことは、料理の世界に限らず、スポーツ、芸術等あらゆる世界に通ずることである。

生徒に、目標に向かって懸命に打ち込む生活体験や苦しさに耐え抜いて努力した後で味わう成就感の体験をさせること

は、目標に挑戦する意欲・気力・忍耐力を育てるために極めて重要である。

懸命に魂を打ち込む姿勢の大切なことは、教師の指導についても同じである。小手先で生徒に接していれば、人間的魅力を失い、生徒の心をゆさぶることはできない。教師が常にためまぬ努力を積み重ね、己の成長をはかることは、指導の根底につながる大切なことである。

—— 信頼を生む心 ——

「私を名医と呼ぶ人がいるが、自分は決して名医ではない。医師として人に語ることでできることが一つだけある。

それは、患者を診る際、どの患者にも病状に応じて必ず言葉をかけてきたことである。医師になって以来、今日までの四十年間、このことを心掛け実行してきた。

もし、人が私を名医というならば、このささやかな行為が患者に信頼感を与えたことによるかも知れない。」

これは、世評名医として高名な某病院長の語ったことである。

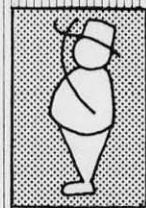
医師と患者との関係は、生命と係わるだけに、担当医によせる患者の信頼は第一条件である。

ささやかな行為という謙虚さの中に、患者を大切にすることをみる。

教育は、教師と生徒という人と人との係わりを基本とする仕事である。これを支える心は、一人ひとりの患者を大切にすることを名医の心と同一であると思うものである。(愛知県教委高校教育課長)

甘言苦言

学芸会



自己表現力の高揚

大樹寺小学校長

太田 憲吾

日本人は、自己をアツピールする能力が低いと言われる。

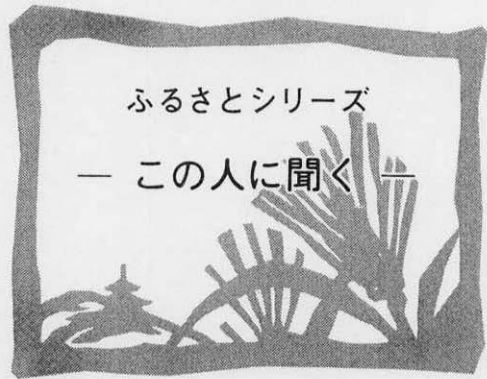
テレビのインタビュアーなどを見ても、外国人は、表情も豊かで、手ぶり身ぶりを加えて、日本人の到底及ぶ所ではない。学芸会は、自己表現力を高めるよい機会ではないだろうか。

それにも増して、一つのことをより高めるために、子どもが学び合い、励み合い、時には、先生の叱咤激励も加わって、人間的なからみ合いの中で、一生の思い出となることに意義がある。

このために、脚本選びを大切にしたい。学年、学級の実態を考え、先生が脚本にほれこむことが大切である。

また、観客である父兄の問題がある。自分の子ども出演が終わると、さつさと帰る父兄が多くなり残念である。

本番の時は子どもが目が生きて輝いている。満場の観客と拍手が子どもを



三河万歳保存

市川 清氏

笑う門には福来たる

めでたいお正月の付き物の一つに、三河万歳がある。岡崎では、奥山田町の保存会「花園連」の人たちによって、その伝統が継承されている。市川さんはその活動の中心になっている人である。

「三河万歳をやっている人である。ことは、本当の正月がきたような気がする」と、皆さんが喜んでくれることですね。それと、練習仲間と兄弟以上の付き合いができることでしょうか。」

市川さんたちは三代目にあたる。初代は市川さんの父親である金一郎さんから七人が、細川・宮石・桑原から集まって習

ったのが始まりである。二代目の三人は戦死された。

「三代目である私たちが習い出したのは、終戦直後のことでした。敬老会で青年団として何かをやらなければならなくなりましてね。それで、おやじに教えてもらったんです。」

三河万歳には大きく分けて三種類ある。格式があつて、七人で演ずる御殿万歳、つづみ・三味線・胡弓の三つの楽器を使い、楽しく演ずる三曲万歳、それと門付にあたる二人万歳。

「三河万歳は安城・西尾・幸田・豊田にも伝承されています。せりふは同じでも、節まわしや踊りの所作は違うんです。全盛のころは、三河や尾張から集まった万歳師を二千人から三千人も乗せた万歳列車が東京に向けて走ったこともあったようです。私たちがも度胸

だめしで行ったことがあります。」
芸の中でも、見る人に笑いを投げかける芸は最もむずかしいという。

「万歳を演ずる人が、まず自分自身楽しんでやるといことが大切ですね。上手にやろうと思えば思うほど、苦虫をつぶした顔になってしまうんです。このことに気がついたのは、四代目の人に教えている時でした。」

保存会が誕生したのは昭和五十六年、今では岡崎市の新年交礼会を始め、各種の行事などで活躍されている。

「市長さんを始め、多くの人たちが万歳保存に理解を示してください、ありが

たいことです。私たちの後継者である四代目も誕生しました。四代目は七人入っていますよ。」

細川小学校では郷土芸能クラブがつくられ、三河万歳を継承している。
「小学校に指導に行きますとね、おじさんおじさんと寄ってきてくれます。父兄の人たちも喜んでいてくれましたね。何ちゅうか、心の触れ合いですね。」

徳川家康は無事息災を願うため、三河万歳を保護し、江戸城にも招き入れたという。市川さんは、家康出生のこの岡崎に、三河万歳をもつと普及させたいと締めくくられた。

〔生年月日 大正6・8・31〕
〔住所 岡崎市奥山田町屋下六〕



奮いたたせ、力以上の活躍をする。それが自信につながる。全職員が、そのことを父兄に訴え、みんな子どもを育てる気持ちを一層高める機会とした。

やり甲斐のある学芸会

奥殿小学校長

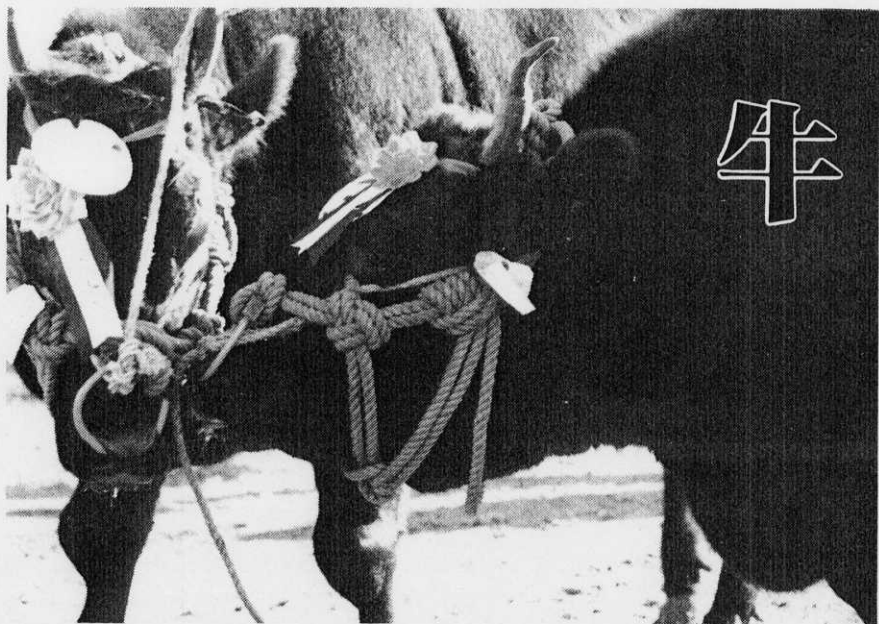
加茂 健三

その劇は「呼びかけ」であつた。おおかみ、うさぎ、りす等に扮した数名ずつのグループが、友情・勇気をテーマにした深みのある物語を展開して行った。主役も端役もない、全員が心を合わせた生き生きとした演技。袖幕で出を待つ子ども達の緊張した顔。小道具を確かめる心遣い。フィナーレでは、全員が舞台に出ていて溢れんばかりの満足感に浸っていた。

この劇が成功した要因は、何よりも「全員に、やり甲斐を実感するような活動をさせたい」という、担任の深い愛情である。必死に脚本を捜し、改作に苦労し、何度も児童と話し合った。練習も全く児童自らのものになり切っていた。

三学期に学芸会があるということは、その学校、学級の一年間の教育成果を総合的に発表するという意義がある。

一、二冊の脚本集をばらばらと見ただけで間に合わせ、練習計画もないまま、毎日哀れな「その他大勢」の喧嘩があるばかりということでは、有終の美どころか、児童の心に癒すことのできない傷をつけるばかりである。



牛

岡崎再見

50

今年「乙丑」にあたる。

柔和で力強い牛は、役畜に最も似合
わしかったが、今では改良に改良を重ね、
肉畜の代名詞にさえなっている。

牛の恩恵を篤く感じてきた人々は、
路傍に観音像を建ててお祀りしてきた。

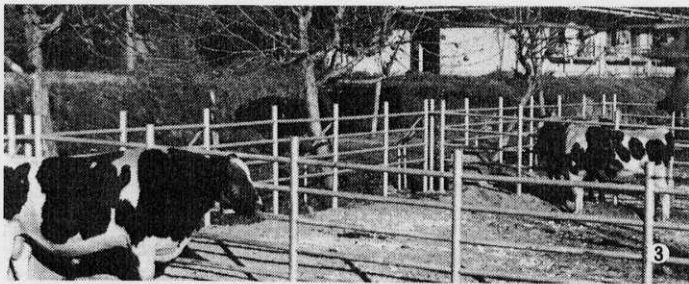
今にも崩れ落ちそうな祠の中で、
風雨を凌いでいる駒立の牛頭観音

走り抜ける車の砂塵と震動をまとも
に受けながらも泰然としている岩
戸の牛頭観音

じつと見つめていると、昔の人々が
足を止め、手を合わせていた光景が彷彿
と浮かんでくる。

その一方で、科学技術の粋を集めた
人工妊娠が、まるみつ牧場では実用化
され、食肉用の優秀な和牛が数多く誕生
している。

牛の世界も新しい時代に突入した。
この一年「牛歩」で力強い前進を、





8



7



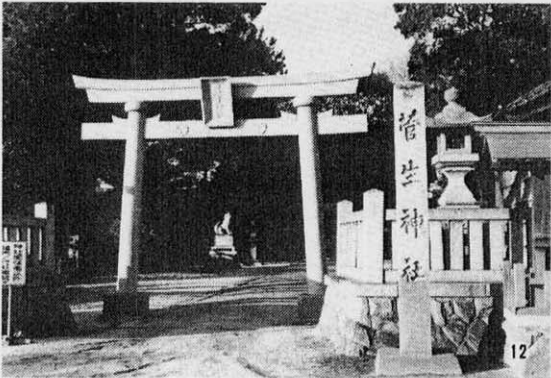
6



9



10



12



11

- ① 東海四県で選りすぐられた牛たちの中から女王を選ぶ。(岡崎中央家畜市場)
- ② 牧場でのびのびと日なたぼっこをする牛。ここには牝牛も二頭いる。(享成牧場)
- ③ 立派な牝牛が五頭、人工受精用の精子を量産?している。ミスター愛知の牛の面。(愛知県種畜センター)
- ④ 気持ちよさそうに乳をしぼられる牛。(細川町・長坂牧場)
- ⑤ バイオテクノロジーの最新技術、人工妊娠によって生をうけた仔牛。この牧場では受精卵の分割実験も手がけ始めているという。(まるみつ牧場)
- ⑥ 昔、牛馬は農家の大切な働き手であった。牛の霊を祀った珍しい牛頭観音。馬頭観音の変形で、顔に牛が浮き彫りにされている。(岩戸町)
- ⑦ 石材を積んだ荷車をひいていた牛たちの霊を祀ったという牛頭観音。(駒立町)
- ⑧ 観音さまを乗せた牛。(松本町・松応寺)
- ⑨ 牛は天神様のおつかい。願かけ撫で牛。(岩津天満宮)
- ⑩ こま犬がわりに門番をする臥牛。(岡崎天満宮)
- ⑪ この滝つぼの底に雨乞いの牛が潜む。(山綱町・牛岩滝)
- ⑫ 天照大神の弟素盞平命(天王様)は人身牛頭の姿であったという。市内でも多くの天王様を祀った神社がある。(菅生神社)

走る・その中で

矢作西小 市川 陽明

夏休みの燃えるグラウンドの中、汗びっしょりになって走り終えた子どもたちが、休憩の合図で私に聞いてくる。
「先生、水を飲んでもいいですか。」

「うん、かまわないよ。でも、考えて飲みなさい。」

こんな暑さの中、脱水状態に近ければ、集中力も散漫となり、充実した練習もできなくなる。

かといって、水を飲み過ぎて胃に負担がかかったり、よけいに疲労を感じて、計画した練習がこなせなくなったりしてしまう。私自身も、学生時代に何度



となくそれを繰り返して、これではいけないと体でつかんできたことである。

練習とは、いったい何なのだろう。今、自分は何をしなればならないのか。私は子どもたち自身がそのことに気づき、常に意識を持って練習に臨んでくれるよう心の中で祈りながら指導を続けた。

そんな思いが通じたのか、やがて子どもたちは、練習のしかたをおぼえ、休憩のしかたもおぼえた。

口に水を含ませる子、木陰で体を休ませる子、足をぶらぶらさせながら、体と心の調子を整える子とさまざまであるが、彼らの目は常に次の練習を意識し、見えざる敵と戦っているように鋭く輝いていた。

今回、彼らが陸上優勝を取ることができたのも、陸上競技が個人競技でありながら、いや個人競技であるからこそ、孤独なスポーツであるからこそ、目に見えない自分との戦いを続ける中で、子どもたちは、いっそう強く団結をし、励まし合いながら、練習が行えたからだと思う。

今回の陸上の練習で子どもたちが得たもの、それは、ただ単

に、試合の成績でもなければ喜びでもない。

今後、子どもたちは、どうしても避けられない壁にぶち当たることがあるだろう。その時、対処のしかたを自ら発見し、乗り越えていける、理論を加味した強い精神力が（少し大ききではあるが）彼らの得た最高の財産であろう。私は、そう信じてい。



歌は心のハーモニー

福岡中 山崎喜久子



「ドンドン ドンドン」

和太鼓の音が教室中に響き渡る。

「ヤーレンソーランソーラン」

のかけ声が、太鼓のリズムに乗

って、一層心地良い。

校内文化祭で歌うクラスの愛

唱歌に「子どもソーラン節」が全員一致で決定してからというもの、このクラスの生徒たちの意気込みは大変なもので、むしろ教師である私の方が追い立てられる気持ちにさせられた。

「先生、下のパートつてむずかしいんだね。普通のソーラン節のメモリーがすぐ出ちゃうよ。」

と、身ぶり手ぶりよろしく音取りをする生徒。

「先生、音楽の時間はいいんだけどね、教室に帰って歌ってみると、もう音がわからなくなっているんだよ。」

と、廊下で行き会う度に「音合わせ」を求めてくる生徒。

歌を知っているから簡単だと思っていた生徒たちにとって、この音取りの苦労は予想だにできなかったに違いない。音取りに明け暮れながらも、何とかハーモニーらしきものができ上がったところには、もう文化祭が目前に迫っていた。

町内から借りてきた和太鼓を叩くことになった明子は、

「先生、去年の岡崎のハーモニーのレコードを聞いて、リズムをちよっと変えてみたよ」と、毎日毎日残って練習し、めきめき、腕を上げてゆく。

「先生、全員ハッピーを着て出てはいけませんか。その方がソーラン節の雰囲気が出ると思うんだけど……。」

「エッ？全員が？」
あつげにとられる私を尻目に自信ありげに帰って行った曜子は、文化祭の前日、見事に約束を果たした。

生徒たちの歌声に、いつも廊下でじっと耳を傾けておられた担任の先生。「歌は心のハーモニーだ」と、身をもって教えられた担任の先生の気持ちをくんで、生き生きと歌い上げる生徒たち。

舞台上に揺れ動く真紅のハッピーを見ながら、今年も、歌に明け、歌に暮れた二学期だったなあと、新たな感慨にふける私である。





第18回県教育研究論文

最優秀賞に神尾房江教諭(竜谷小)

県教育委員会と県教育振興会主催の第十八回教育研究論文は、県下全域より三八八点の応募があった。岡崎市からは一〇六点が応募され、竜谷小学校神尾房江教諭の最優秀賞をはじめ、五点が入賞した。

【個人研究】

▽最優秀賞 神尾房江(竜谷小)
「第一印象を大切にしたいひらがな指導」

▽佳作 小倉敏幸(梅園小)
「問題意識の連続する理科学習」

【共同研究】

▽優秀賞 岡崎小音楽部
(代表 原田典代)

「豊かな表現力の育成をめざして」
▽佳作 六ツ美中音楽部

【寄贈刊行物・資料等】

◆恵田の子どもは今 恵田小 B5 一四六ページ

◆わかる学習指導 竜海中 B5 一四四ページ

◆岡崎の婦人教師岡教組婦人部 B5 二〇ページ

◆昭和59年度 豊稷

B5 孔版 岡教組婦人部

◆私たちの読書 教務主任会 B5 孔版

◆子どもひとりひとりが生きる特別活動 恵田小 B5 五〇ページ

◆本を読んで 第12号 矢西小 A6 二〇四ページ

書館1、学校保健8、生活指導3、教育全般10

〈中学校〉
国語21、書写1、社会16、数

学15、理科18、音楽10、美術8、

体育12、技術・家庭9、英語9、

道徳4、特活16、特殊2、視聴覚1、

学校保健3、教育全般4

■大樹寺小に日本視聴覚教育奨励賞

日本視聴覚教育協会が募集した昭和五十九年度の日本視聴覚教育賞論文で、大樹寺小学校が日本視聴覚教育奨励賞を獲得した。

■日本標準教育賞に鈴木(奥殿)、加藤(連尺)の両教諭

日本標準教育研究所が主催する昭和五十九年度日本標準教育賞論文において、鈴木勲三教諭(奥殿小)「小学校における水泳指導の

体系化とその実践」

加藤由美子教諭(連尺小)「読み書きを結ぶ表現活動」

が、共に優秀第三位に入賞した。

■岡崎市自作TPP作品六十六点が入選

昭和五十九年度の岡崎市自作TPP作品は八十六点の応募があった。そのうち小学校四十五点、中学校二十一点が入選と決まった。入賞者は次の通り。

〈小学校〉

▽国語Ⅱ尾崎としえ(広幡) 石原耕平(岩津) 太田洋子他二名(細川) 水鳥好乃(三島) 佐野佳三(藤川)

▽社会Ⅱ清水真奈美(細川) 天野孝悦(本宿) 金田美子(三島)

▽算数Ⅱ加藤喜代美(大門) 酒井照代(大門) 加藤勝己(大門)

▽理科Ⅱ本沢寿美子(細川) 八田敏公(連尺) 藤井明美(藤川)

▽谷川光代(三島) 高橋啓三(大樹寺) 河合安男(愛宕)

▽音楽Ⅱ白井絃子(小豆坂) 長坂寿子(井田) 玉置克之(上地)

▽体育Ⅱ鈴木博美(愛宕)

▽保健Ⅱ山田寿和子(常南) 吉田久子(広幡) 鈴木金利(梅園)

▽三木世紫子(大樹寺)

▽道徳Ⅱ小栗浩子(六名) 片岡みどり(細川) 杉浦敬子(細川)

▽長島洋子他一名(本宿)

▽特活Ⅱ酒井豊(大門) 小栗春枝(愛宕) 山田真寿美他二名(連尺) 青山静夫(上地) 山本健治(大樹寺)

〈中学校〉

▽国語Ⅱ武藤恵子(美川) 田村多恵子(矢作北)

▽社会Ⅱ山田賢平(福岡) 高木和広(美川) 山田靖彦(六ツ美)

▽数学Ⅱ畔柳義範(美川) 坂本雄士(美川) 内藤広光(南) 杉山隆之(常磐)

▽理科Ⅱ山本信夫(美川) 小坂芳正(美川) 羽根淵一夫(美川)

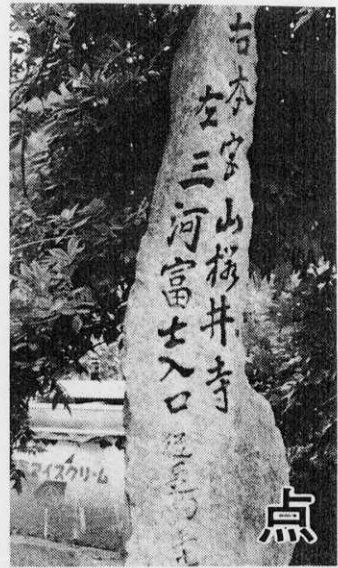
▽後藤晶基(矢作北) 磯貝良雄(矢作北)

▽英語Ⅱ松本香(矢作)

▽美術Ⅱ畔柳とも子(城北) 長坂有里乃(六ツ美) 原田雅文(矢作北)

▽技術Ⅱ加藤秀雄(六ツ美) 渡辺総意(矢作北)

▽特活Ⅱ伊藤直也(矢作)



所在地一岡崎市蓬生町

三河富士入口従是三十丁

生平小学校の前の県道を、男川に沿ってさかのぼる。やがて、もうすぐ額田郡に入るといふ所で道が大きくカーブし、南に折れる。今は県道から外れてしまった旧蓬生バス停、古部川の橋のたもとに、高さ二メートル余の山から切り出したままの花崗岩に、「右本宮山桜井寺、左三河富士入口従是三十丁」と、素朴な字体で刻んである一基の道標がある。裏面には「昭和二年四月、青年会建之」とある。

三河富士というのは、この道標の下を流れる古部川をさかのぼっていくと、やがて正面に見えてくる海拔三二二・七メートルの富士山形のものである。この山の頂上には富士山頂の溶岩と浅間神社のお札が御神体として祀つてある小さな祠がある。今から七百年ほど前、郷土菅沼四郎左衛門という人が村中安全を願つてこの地に浅間大権現を勧請したというが、以後、ちょうど新四国めぐりと同様に浅間権現出張所の役割を果たしてきた。例祭は、元旦と四月十四日、かつてはけっこうにぎわい、中腹にある茶店で湯茶の接待もしたという。道標をたよりに参詣者が列をなしたであろう。が、今では外からの参詣者は断えた。

● カ ッ ト 常 盤 中 坪 井 恵 里 子



- * 田舎暮らしの探求 高橋 義夫 1200
草思社
- * 天璋院篤姫 上・下 宮尾登美子 各1200
講談社
- * 最後の子どもたち グードルン・パウゼヴァンダ 780
小学館
- * 見つける 育てる 生かす 980
二見書房

- * 子どもからの赤信号 NHK取材班 1000
日本放送出版協会

「子どもの体に何かが起きている」「いじめの構造を探る」「農村の子も病んでいる」の三部から成っている。本質的には「豊かさ、と便利さ、の、子どもたちへの逆襲」ととらえた上で、さまざまな現象や実態の解釈を試みている。

事例が多様なだけに、学級経営上にも資するところは大きいと思われる。その意味では、学級担任にぜひ一読を勧めたい。

牡牛の猛々しい勇姿、牝牛の豊満な乳房、仔牛の愛らしい目、どの年賀状にも牛、丑、ウシ……。うし年の始まりだ。幼いころ、反芻の話を聞いて、涎をたらした汚い牛を見直したものだ。

教育の荒廃が問われている現在、うし年にちなんで、今一度教育の原点を反芻してみてもどうであろうか。

シオア

新しく「パソコン」が中学校に導入された。子どもは、コンピュータに強い。簡単なプログラムなら作る子がいる。米屋もモーターもコンピュターを利用する世の中である。毛嫌いをせず、活用していかなくてはと思う。

勇気を出して、キーボードをたたき、ベーシックの学習を始めた。

市内の牛に関する特集でM牧場へ取材訪問。ここでは暮れにテレビで放映されたバイオテクノロジーの最先端人工妊娠が、すでに実用化されていたのには驚いた。今では仔牛の生産はほとんど人工受精、立派な「もの」を持つ牡牛は市内に両手ほどもないと聞き、びっくり。近代科学を再認識する一日であった。

墨をすり、筆を持つて年賀状を書く。最近、活字文化の普及によって印刷物が味気ない。賀状も然り、時には全く同じ印刷ものが届くと、いやな感じがする。教え子には、せめて一言でもよいから直筆の言葉が欲しいものである。真心のこもった賀状でありたい。一行の心を籠めし年始状 虚子